





# NEXCO東日本グループのあゆみ

2005年10月に設立された「NEXCO東日本」は、前身の日本道路公団の分割・民営化により誕生し、グループ会社とともに、東日本地域の高速道路・自動車専用道路の建設と管理・運営等を行っています。日本道路公団の歴史を含めると、もうすぐ70年。これからも培った経験とノウハウを生かし、高速道路の安全・安心・快適・便利を支え、日本経済の発展に貢献し続けます。

## 経済貢献 (開通)

### 北関東道(全線) 開通

北関東3県間の交流がスムーズになり、新たな産業の大動脈が誕生しました。



### 道東道 夕張IC～占冠IC間 開通

この開通により、道央圏と道東圏が高速道路により結ばれました。



### 圏央道 東金JCT～木更津東IC間 開通

千葉県を中心とするネットワークの広域化が図られました。



### 常磐道(全線) 開通

東北道と常磐道のダブルネットワークが形成されました。



### 圏央道 桶川北本IC～白岡菖蒲IC間 開通

東北道から東名高速までつながり、首都圏の交通流動に変化をもたらしました。



### 東京外環道 三郷南IC～高谷JCT間 開通

この開通により、東京外環道の約6割が完成し、4つの放射道路(東関東道・常磐道・東北道・関越道)が接続しました。



2005

2008

2009

2011

2013

2014

2015

2016

2018

2020

2021



### 東日本高速道路株式会社 発足

公団が分割・民営化され、「高速道路株式会社法」に基づき、NEXCO東日本／NEXCO中日本／NEXCO西日本が誕生しました。

## 危機管理 (防災・減災)

### 東日本大震災による被災

震災の被害を受けた区間は20路線、約870km。NEXCO東日本では応急復旧工事に昼夜を問わずに取り組み、震災から約20時間後、緊急車両の通行を可能とする仮復旧を完了し、震災から13日後にほぼ全線で一般車両の通行を可能としました。



### 防災拠点の誕生

「サービスエリアの防災拠点化」のフラッグシップとして、守谷SA(上り線)がオープンし、サービスエリア機能に加え、有事の防災拠点機能も備わりました。



### 関東支社 道路管制センター リニューアル

最高水準の耐震基準を採用する道路管制センターとして、リニューアルしました。



### SMH運用開始

技術者とICT等のベストマッチングを目指した「SMH\*プロジェクト」において、第1期運用を開始しました。



\*スマートメンテナンスハイウェイの略称 (Smart Maintenance Highway)



### 「moVision」が始動

「自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿」をとりまとめ、31項目からなる「重点プロジェクト」を始動しました。

## チャレンジ

### 「Pasar」が誕生

「あるから利用する施設」から「進んで利用したくなる施設」へ。NEXCO東日本の挑戦第一歩となる「Pasar幕張」が開業しました。



### インドへの事業進出

インドにおいてNEXCO東日本が持つ技術を広く提供するため、海外事業推進の基盤となる初の海外事務所をニューデリーに開設しました。



### インフラ長寿命化基本計画策定

2014年にインフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議でとりまとめられた「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、当社が管理する高速道路の更新等を着実に推進するための中長期的な取組みの方向性をとりまとめました。



### 総合技術センター運用開始

現場経験を補完する体験型・体感型研修を可能とする総合技術センターを開設しました。

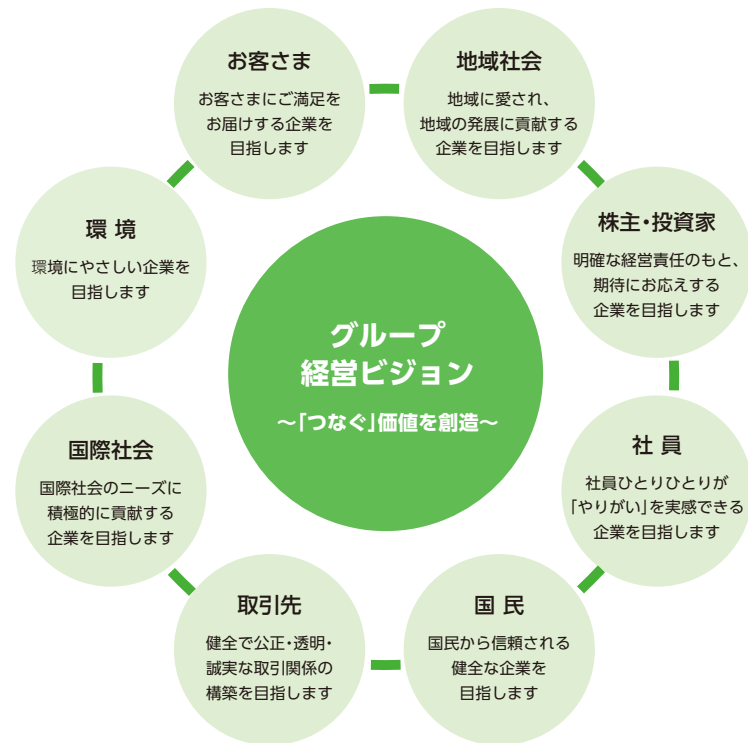




## Our Vision

### グループ経営理念

高速道路の効果を最大限発揮させることにより、  
地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。



NEXCO東日本グループは、地域・国・世代を超えた豊かな社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し、あらゆるステークホルダーに貢献する企業として成長します。

### 「つなぐ」価値を創造する。

NEXCO東日本グループは、グループ経営ビジョンの実現に向け、5つの経営方針を定めています。

### グループ経営方針

- お客さまを第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
- 公正で透明な企業活動のもと、経営資源を最適に活用することにより、健全なグループ経営を行うとともに、的確な企業情報の発信を行います。
- 終わりのなき効率化を追求し、技術とノウハウを発揮した事業により、社会の発展を支えます。
- グループ社員が健康でやりがいを持って働ける環境を整え、社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精神を大切にします。
- CSR経営を推進し、ステークホルダーにとどける価値とグループ全体の企業価値を高め、持続可能な社会の実現に貢献します。

## 事業概要 (2023年8月1日現在)



## 会社概要

社名	東日本高速道路株式会社 (East Nippon Expressway Company Limited)		
所在地	〒100-8979 東京都千代田区霞が関三丁目3番2号 新霞が関ビルディング TEL:03(3506)0111(代表) (サービスエリア・新事業本部) 〒105-0021 東京都港区東新橋二丁目3番17号 MOMENTO SHIODOME 6階		
代表者	代表取締役社長 由木 文彦	資本金	525億円
設立	2005年10月1日	社員数	2,516人 (2023年8月1日現在、社外への出向者を除き、社内への出向者を含む)
事業目的	高速道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理を効率的に行うこと等により、道路交通の円滑化を図り、もって国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与すること		
事業内容	高速道路の管理運営・建設事業、サービスエリア事業、駐車場事業、高架下活用事業、トラックターミナル事業、カード事業、ウェブ事業、ホテル事業、海外事業 など		
北海道支社	〒004-8512 札幌市厚別区大谷地西五丁目12番30号	TEL:011(896)5211(代表)	
東北支社	〒983-8477 仙台市宮城野区榴岡一丁目1番1号 JR仙台イーストゲートビル	TEL:022(395)4002(代表)	
関東支社	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町一丁目11番20号 大宮JPビルディング	TEL:048(631)0001(代表)	
新潟支社	〒950-0917 新潟市中央区天神一丁目1番 新潟プラウカ3	TEL:025(241)5111(代表)	

「高速道路事業の枠組み」の詳細はこちらから <https://www.e-nexco.co.jp/csr/group/debt.html>



## 24時間365日、高速道路の安全・安心・快適・便利を守る

熟練の現場経験で  
お客さまの安全を守る

24時間365日、高速道路を巡回し、道路・交通等に異常がないかを確認し、事故・故障車・落下物などの異常事象が発生したときには、現場に急行し、警察・消防機関等と連携のうえ、車線規制や事象対応を実施しています。

また、法令で定められた車両の長さ・重量などの最高限度を超えた車両や、長大トンネルなどを通行することができない危険物を積載している車両の走行を防ぐため、法令違反車両の指導取締りを実施しています。特に、重量超過車両は、道路構造物の劣化に重大な影響を及ぼし、交通安全上も重大な事故につながる恐れがあるため、入口料金所などで厳格に取締りを実施しています。



落下物排除の様子

違反車両の取締りの様子

構造物などの異常をすばやく察知し  
迅速に対応する

道路構造物・附属物の日常点検に加え、大規模災害等が発生した時には迅速に保全点検を実施しています。また、道路構造物・附属物の清掃・補修、機能向上に必要な工事を計画的に行う維持・修繕を実施しています。



橋梁点検

舗装補修作業



除雪作業(道央道 三笠IC付近)

## 雪道の安全対策

NEXCO東日本グループが管理する事業エリアは、冬期の気象条件が厳しい地域が多く、過去の大雪で発生した車両滞留事象を踏まえ、2021年度から地域ごとに設定したタイムライン(行動計画)をもとに降雪時の安全対策に取り組んでいます。

2023年1月24日から1月25日の新潟県・長野県における大雪では、計画したタイムラインに基づき、並行する国道とあわせて同時刻から予防的通行止めを実施し、事故、スタックおよび車両滞留を未然に防ぎ、通行止め解除後の円滑な交通を確保しました。

進化するサービスエリア  
誰もが喜びと憩いを感じる場に

サービスエリア・パーキングエリア(SA・PA)での快適な休憩・休息は、ドライブ中のストレスを軽減し、お客さまの安全運転にもつながるため、お客さまのニーズや社会環境の変化にあわせて、SA・PAのクオリティ向上に取り組んでいます。



「鬼平江戸処」(東北道 羽生PA上り線)

## 労働人口減少下でも料金所を安定運用する

料金所では、お客さまの安全走行を確保し、交通状況に応じた適切な車線運用に取り組むとともに、心地よくご利用いただくために接客マナーの向上に努めています。また、料金収受の高度化・効率化にも取り組んでいます。



料金所を遠隔対応するオペレーションセンター

## 技術力の向上とイノベーションで未来の高速道路を創造する

管理事業の生産性向上を目指す  
SMHプロジェクトの推進

SMH(スマートメンテナンスハイウェイ:Smart Maintenance Highway)は、高速道路の長期的な「安全・安心」の確保のために、ICT(情報通信技術)やロボティクス、AIなど最新技術を活用し、高速道路のアセットマネジメントにおける生産性を向上させるプロジェクトです。これにより業務の効率化・高度化を図り、各業務における意思決定プロセスの標準化と生産性向上を図ります。



壁昇降点検ロボット



球体ドローン

「SMH」の詳細はこちらから

<https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/smh/>

自動運転社会の実現を加速する  
技術開発への取り組み

安全・安心で自動運転等のイノベーションにも対応した快適な高速道路の実現に向け、目指すべき高度なモビリティサービスを提供するため、2021年4月に「自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿(構想)」(moVision)をとりまとめました。

今後は、自動運転と非自動運転が混在する状況下でも、安全で円滑な道路交通を確保するための実証実験や検証(道路管理の高度化に必要な情報収集・提供系施設および有効な情報提供等)を行ってまいります。



「moVision」の詳細はこちらから

<https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/future/>



## 高速道路を守る人材育成の推進

技術力とマネジメント力を身につけるため、実務年数に応じた研修の受講による技術者育成を行っています。

VR・3Dなどの研修設備を備えたNEXCO東日本総合技術センターでは、構造物が劣化するメカニズムを体感・体験できるほか、現場から撤去した橋りょう床版・舗装、土構造物などを用いた疑似現場経験も積むことができます。



研修(疑似現場経験)の様子

## 雪氷対策高度化システム「ASNOS」

熟練オペレータの高齢化や労働人口減少による担い手不足と作業の省力化・効率化等を目的に、準天頂衛星システム「みちびき」を活用した「自律走行<sup>\*1</sup>」と「シューター(切り崩した雪を路外へ飛ばす筒状の装置)操作の自動化<sup>\*2</sup>」の開発を進めており、2022年度には自律走行とシューター操作の自動化試験と検証を行いました。

※1:ドライバーが乗車した状態で、ステアリングやアクセルに触れずに自動で走行操舵するもの。

※2:主にシューターの角度や向きを、路肩等にある標識やスノーポール等に合わせ自動制御するもの。



準天頂衛星

高精度地図情報

運転支援システム  
(ガイダンスモニター)自律走行機能付き  
ロータリ除雪車

※画像はイメージです



## 高速道路の機能強化で支える地域社会の発展

### リニューアルプロジェクトで健全な高速道路機能を確保する

全国の高速道路で推進中のリニューアルプロジェクトと並行して進める定期点検(5年に一度)や点検技術の高度化を踏まえた詳細調査の実施により、新たな劣化事象が確認されました。現在、新たに更新が必要な箇所が全国で約500km判明し、当社管内では、約180km規模となる見込みです。



橋梁(床版)リニューアルの様子

「高速道路リニューアルプロジェクト」の詳細はこちら <https://www.e-nexco.co.jp/renewal/>



### ネットワークの整備で暮らしの向上

災害に強い高速道路づくりのほか、ミッシングリンク(道路が途中で切れている未開通区間)の解消、暫定2車線区間の4車線化やスマートインターチェンジの設置による高速道路の機能強化が重要な課題と捉えています。

現在は、東京外環道 中央JCT~大泉JCT間、横浜環状南線(圏央道) 金利谷JCT~戸塚IC間および栄IC~JCT~藤沢IC間、圏央道 大栄JCT~松尾横芝IC間などの整備を進めています。あわせて、暫定2車線区間の4車線化を計画的に進め、安全・安心のための機能向上に取り組んでいます。

また、スマートICは、従来のICと比べて低コストで導入できるため、既存の高速道路の有効活用が期待できます。地域生活の充実や地域経済の活性化を推進するため、地元自治体と連携して、各地でスマートICの整備を進めていきます。



圏央道(久喜白岡JCT~幸手IC間)



### 【新設事業】横浜環状南線(圏央道) 【金利谷庄戸トンネル工事】

庄戸トンネルは、横浜横須賀道路との接続部に位置しており、最大で3車線の本線と2車線のランプが一体となった計5車線のトンネルとなります。また、NATM工法(新オーストリアトンネル工法)で施工する道路トンネルとしては、世界最大級の最大幅29m、最大高さ20m、掘削断面積約480m<sup>2</sup>の大断面トンネルです。  
(写真中央部のうち、左側が2車線のランプ部、右側が3車線の本線部)

## 環境に配慮した高速道路 温室効果ガスの排出削減に貢献する

### NEXCO東日本 温室効果ガス排出削減計画の策定

NEXCO東日本グループでは、環境を取り巻く社会情勢に応じていくことを大切にしており、当社のオフィス活動における2030年度までの温室効果ガス排出削減のための実行計画を策定し、取り組みを始めています。さらに、事業部門を含めた2050年度までのカーボンニュートラル計画を策定し、2024年度以降の取り組みを加速します。

#### オフィス部門における温室効果ガス排出削減

太陽光発電の導入 /  
建物のZEB化\*

▲483 t-CO<sub>2</sub>/年

事務所の新築・改築に当たり、太陽光発電設備の設置や高断熱・高効率設備等(ZEB Ready仕様)を採用します。

電動車の導入

▲153 t-CO<sub>2</sub>/年

オフィス活動で使用する車両\*をすべて電動車(ハイブリッド仕様を含む)に入れ替えます。  
※災害時等の緊急用車両を除く。

LED照明の導入 /  
再生可能エネルギーの調達

▲3,077 t-CO<sub>2</sub>/年

全事務所の室内照明にLED照明を採用するとともに、電力調達の60%以上を再生可能エネルギーの調達を目指します。

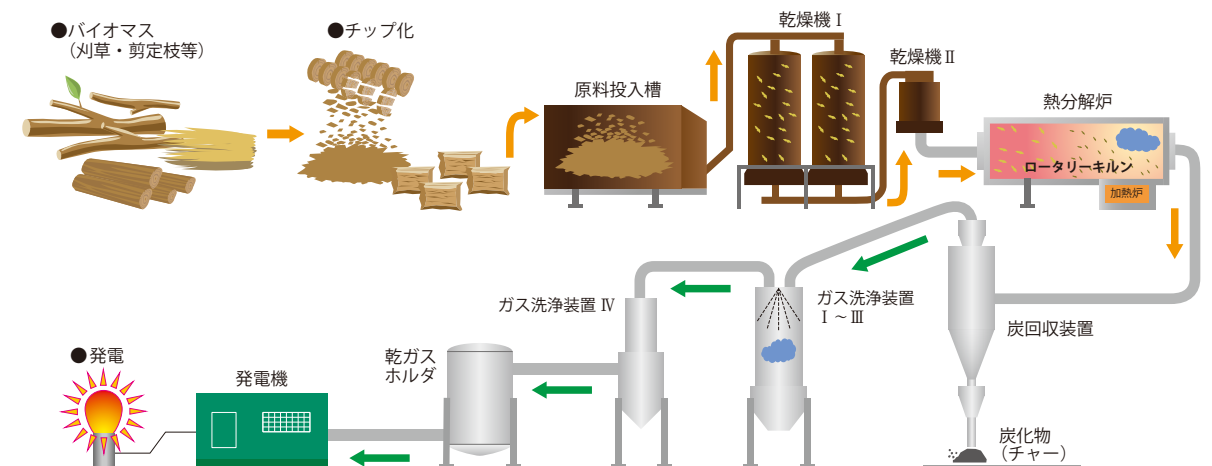
\*再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から、50%以上の一次エネルギー消費量を削減した建築物(ZEB Ready相当)

### 樹木等の剪定で発生した植物発生材を再利用し、 循環型社会形成への貢献を目指す

上信越道 富岡JCTにほど近い「富岡バイオマスガス化発電プラント」では、高速道路の維持管理で発生する刈草や剪定枝、間伐材等(バイオマス)の草木混合材料を熱分解炉で加熱しガスを発生させ、そのガスをエネルギーに利用して、電気を発電しています。また、バイオマスを直接燃焼せずガス化することにより、その残りかすとして発生する炭素(炭)を、土壌改良材料などに有効活用しています。



富岡バイオマスガス化発電プラント





## 開かれた高速道路がつなぐ地域社会と国際社会

## サービスエリア・パーキングエリアを生活の一部に

一部のSA・PAでは、高速道路をご利用されるお客さまだけでなく、沿道地域の皆さまにもご利用いただけるよう、一般道側にも駐車場を設け、ウォークインゲートを通ることによりSA・PA内の施設をご利用いただけるようにしています。

ウォークインゲートの設置により、SA・PA内の店舗で取り扱う名産品やグルメ、地元で採れた青果類を扱うコーナー（一部のSA・PA）を沿道地域の皆さまが日常的にお楽しみいただけるようにしています。



ウォークインゲート  
(東北道 羽生PA上り線)



地域の野菜産品を販売  
(関越道 赤城高原SA上り線)

地域活性化の拠点として  
高速道路関連ビジネスを展開

日比谷駐車場に併設する駐輪場(HIBIYA RIDE)は、都心へ自転車通勤される方などにご愛顧いただき、自治体が推し進める放置自転車対策にも貢献しています。その他にも高速道路の高架下を駐車場等として周辺地域の方にご利用いただくなど、地域の生活や企業活動へ貢献しています。



更衣室、シャワールームを備えた  
[HIBIYA RIDE]



東北道高架下(さいたま市岩槻区)

## 日本の技術とノウハウを海外に広げる

2019年11月、インドに設立した海外現地法人 E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED (ENI) では、2021年12月からは「E-NEXCO Eye」による路面性状測定業務を実施しています。「E-NEXCO Eye」は、レーザーやカメラを用いて、路面のひび割れやわだち掘れなどを測定することができ、夜間に最高時速100km/hで走行しながらデータを取得することができます。高速道路の高度な管理・運営ニーズが高まるインドにおいて、最適な補修計画の立案や安全な道路空間の実現に貢献しています。

一方、三菱商事(株)、海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)、日本高速道路インターナショナル(株)(JEXWAY)とNEXCO東日本が共同で日本コンソーシアムを設立し、現地のCube Highways社の有料道路運営事業に参画し、当社は高速道路の点検業務を受注しています。また、Cube社と当社間では、休憩施設事業および道路維持管理全般に関する技術アドバイザリー契約を結んでいます。



路面性状測定車「E-NEXCO Eye」



「E-NEXCO Eye」による測定状況



インドでの技術指導の様子



ENIは、現在、日本人駐在員2名、  
インド人スタッフ3名の体制

## 高速道路と福祉の連携



高速道路と福祉が連携して幸福を拡げていく「高福連携」は、高速道路の環境美化作業などを障がいのある方と協働し、地域社会の活性化に貢献することを目指した取り組みです。

2018年から全社展開し、ロゴなども活用し、統一的なCSR活動を後押ししています。



高福連携活動(花壇整備の様子)

## 良質な高速道路の「礎」と多様な人材育成

## 能力発揮と成長を支える人材育成プログラム

当社では、日々の業務から必要な知識、スキルを取得するOJTを重視し、上司社員の教えるスキルを向上させるための研修(OJTリーダー研修)や、日々のコミュニケーションが円滑になるよう1on1のミーティングなどの施策を実施しています。また、業務や役職などに応じた知識、スキルを効果的に取得することを目的とした研修(Off-JT)も多数実施し、社員一人ひとりがプロフェッショナルとして、能力を発揮し、成長することができる機会を整えています。なお、2023年度中に「NEXCO東日本人材育成計画(仮称)」を策定し、社員の価値を最大限引き出すための取組みを行ってまいります。

## NEXCO東日本の主な人材育成プログラム(OJT以外)

## 階層別研修

年次や階層ごとに求められる知識や能力・スキルを取得します。入社3年目までは若年層研修として、NEXCO東日本グループ事業の理解促進と仕事を進める上での基礎知識を確立し、求められる役割、必要な能力・スキルを取得します。(年間約15講座実施)

- 若年層研修(入社1年~3年)
- 事務所課長・支社課長代理研修
- 本社係長研修
- 事務所長研修
- 支社課長研修 など

## 業務別研修

各業務において必要となる専門知識、能力・スキルを補充・強化し、社員の着実な業務遂行を支援します。(年間約60講座実施)

- 土工/舗装/橋りょう/トンネル技術研修
- 保全管理研修
- 雪氷対策技能研修
- 実務担当者法規研修
- 交通管理研修 など

## 課題別研修

コンプライアンス意識やストレスマネジメントなど、全社員が共通して身につけるべき事柄や、DXといった世の中の情勢を踏まえた知識、スキルを取得します。(年間約20講座実施)

- コンプライアンス研修
- コンプライアンス推進リーダー研修
- ストレスマネジメント研修
- DX基礎理解研修 など

## 通信教育

専門知識、能力・スキルの取得や資格取得のための講座から、タイムマネジメントや業務効率化、コミュニケーション能力向上といった仕事を進める上で必要なスキルを身につける講座まで、幅広い分野の講座を提供しています。

## 資格取得

業務に必要なまたは関連する資格を対象に、その取得に要した受験料や受講料等の費用を会社が補助し、社員の専門知識取得を促進しています。(対象資格:約80種類)

## 女性の活躍推進

当社では、採用担当への女性社員配置や、女性社員ワーキンググループの設置、女性社員による座談会での意見交換の機会を設けるなどの取組みを実施しているほか、労働環境についても、職場の意見を踏まえて、女性専用の休憩室(仮眠室・更衣室・シャワー室等)を充実し、より快適な職場環境の整備を進めています。

また、子育て支援の面では、男性社員の育児休業取得率向上を目指すことで、会社全体として出産・育児中の社員が働きやすい職場環境づくりを目指しています。

2023年度からは、共働き世帯を対象に、男性社員についても、子が産まれてから一定期間、転勤を免除する制度を導入しました。

～産学共創の人材育成～

## 仙台 事業構想大学院大学

事業構想と構想計画を実践研究する事業構想大学院大学(学校法人先端教育機構・東京都港区)は、事業構想家の輩出を通じて企業、地域、そして社会の変革を担う人材育成を掲げており、当社の理念・目的と合致していることから、人材活性化と新事業創出を目的として基本協定を締結しました。

さらに2022年4月には、宮城県を拠点に人材育成を進める「仙台 事業構想大学院大学」を共同開設し、当社社員も各種講義に参加するなど、当社の人材育成プログラムの一つとして活用しています。

